児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用　（別添様式2）

公表日：令和6(2024)年　1月　19日　　事業所名：ぷるうみぃ　　サービス種類：児童発達支援・放課後等デイサービス

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	身体の大きさや医療機器の使用状況を考慮し、可能な限りスペースが確保出来るよう努めている。呼吸器を使用している利用者が増えておりベッドの台数も増え、スペース確	はい：23　どちらともいえない：1　わからない：1 直接見たことは無いがホームページの写真で環境整備出来ているように見える。	利用者の成長に伴い、スペースの確保が年々難しくなってきている。安全確保を第一に考え利用者が安心して過ごせ、職員の動線が確保出来るようなスペースを作っていく。
	2	職員の適切な配置	看護師は常時2名で対応している。 児童指導員を配置している。 長期休みには必要に応じ、看護師や介護職員を増員している。	はい：24　わからない：1 リハビリやケアの事を色々聞けて教えてもらえる 安心して預けている。	その日の利用者の利用時間やケア内容に応じ、適切な配置を行えるよう検討していく。 送迎時間など配置数が減る時間帯に安全に過ごせるよう時間配分を行う。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	完全バリアフリー化されている。車椅子用トイレにベッドも完備しており、必要に応じ使用している。浴室にリフトが導入され、個々の状態に合わせ活用している。	はい：23　わからない：2	今後も利用者が快適に過ごすことが出来るよう、環境整備を行う。全員が車椅子用トイレに移動出来る訳では無い為、排泄介助のあり方、スペースの確保が課題となっている。改善出来る様に検討していく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清潔な空間となるよう、清掃、換気、消毒などを行い、空気清浄機を設置している。子ども達が安心して安全に活動を楽しめるよう、ベッド等の配置を工夫している。	はい：25	日々の清掃、換気をこまめに行う。 子どもたちが安心して快適に過ごせるよう、ベッドの配置や荷物管理など行う。 その日の活動に合わせた配置を検討する。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	多職種で計画書を作成している。 デイのスタッフ会議を実施しており、その他、必要に応じて、話し合いの機会を持っている。		今後も必要に応じ、利用者一人一人について職員間で話し合いの場を持ち、情報共有が出来るように努めていく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	社労士からの指導を受けている。		書類作成の時間が確保出来るよう勤務体制を検討していく。 1日の流れを把握し、職員が効率よく休憩に入れる様、時間配分を行う。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修案内は事業所内で共有出来ているが受講者に偏りが見られる。平日の研修への参加が難しい。事業所全体会議の時に内部研修の機会がある。		平日の研修への参加ができる様、勤務調整を行う。 オンライン研修への参加機会を増やしていく。 職員全員が積極的に研修に参加する機会が増える様、意識を高め、知識、技術の向上を目指していく。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	送迎時やモニタリングなど、保護者と話す機会を作り、ニーズの把握に努めている。 各専門職が課題を分析し、計画作成している。	はい：25	保護者から聞き取った内容を職員間で共有していく。 各専門職が課題とすることをお互いに把握する。 課題を明確にし、子どもたちに無理のない計画書を
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用者の年齢や発達状況、身体の状態を各専門職が評価したうえで、目標、支援内容を分かりやすく、また、具体的な内容で記載している。		個々の年齢や発達に応じた個別活動を検討し、計画作成する。 集団活動は分かりやすい内容のものとなるよう工夫して計画する。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用者の年齢や心身の発達状況など、各専門職が評価し、保護者にも分かりやすい様に具体的な支援内容を記載している。		子どもたち1人1人に合った分かりやすい計画書となるよう、具体的に記載していくよう努めていく。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	その日の心身の状態を考慮しながら支援を実施している。 計画書に沿った支援は出来ている。	はい：25	各専門職同士が、それぞれの課題や計画を理解し合い、連携して支援できるよう、職員間のコミュニケーションをさらに深めていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	活動内容については保育士が中心となり、月ごとに立案し会議で共有している。	はい：25 季節に合わせたイベントがとても工夫されていて本人はとても楽しんでいる。 年間の行事やクッキングなど楽しめている。 幅広い遊びやリハビリを取り入れてもらえるので色々な経験が出来て親子共々楽しい。 衣装やエプロンを用意したいので予定が分かれば事前に教えて欲しい。 ノートを読んで楽しそうだなと思っている。 たくさん笑顔を見せているようなのでそれが一番嬉しい。達成感を味わって帰って来るのが、とても良い事だと思う。 楽しい企画ばかりで飽きることなく満足している。 毎回活動内容が変わっていて、それにされに参加するためのリハビリで身体の準備もあり嬉しい。	立案された内容に関し、各専門職がそれぞれの視点から意見を出し合い、さらに具体的な話し合いに発展させていく。 （時間的に可能な内容か、子どもたちに分かりやすい設定か、道具は適しているか等）
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日に関しては放課後の利用者は滞在時間が短いため、医療ケアや入浴を行い、利用者の状態により、リハビリや活動の時間を作っている。 長期休暇時は可能な限り集団で楽しめる活動に重点を置いている。		放課後デイの利用者の長期休暇の外出を計画していく。 平日に関しては、滞在時間に合った無理の無いスケジュールとなるような活動内容としていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	活動内容は週ごとに内容を変えている。 スポーツなどの時事も取り入れている。 季節に沿った内容が中心となるが、流行も取り入れるよう工夫している。散歩や近場への外出、畑などの屋外活動も行っている。		今後も季節感を大切にした活動としていく。 昔ながらの遊びと流行を取り入れた活動を組み合わせていく。 年齢に合った経験ができる様な内容としていく。 コロナ禍で控えていた外出の機会を増やしていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	訪問、送迎の関係もあり、支援開始前の確認をスタッフ全員で行うことは難しい日が多い。 支援の中で内容の確認や役割について、その都度声を掛け合っている。		支援開始前の必要な確認は、可能な形で行っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後に職員全員で振り返りを行うことは難しい。 気が付いた点、問題点については早期に話し合い、個人ファイルで情報共有している。		支援の中で気が付いた点に関しては改善につながるよう、今後も早期に振り返りを行い、情報共有する。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援内容については、個人のノートに、時間、内容、状態など記載している。 複数の職員が目を通し、正確な記録となっているか確認している。 ケアの変更点についても注意している。		複数のスタッフで目を通し、記入漏れが無いか確認している。気が付いた点については検証し、改善につなげていく。 ケアやリハビリ、活動などが終了してすぐに記入するよう心がけていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回、電話または訪問、送迎時にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。		今後も継続していく。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	可能な限り、支援会議に参加している。 勤務調整が困難な場合は、書面、電話にて相談支援員に利用者の様子を伝えている。		可能な限り勤務調整を行い参加していく。 困難な時には書面、電話などで相談支援員に情報を伝える。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	学校とは、送迎時の情報共有や保育所等訪問支援を通し連携できている。 必要に応じ、相談支援員と電話連絡による連携を行っている。		学校送迎等の引き継ぎ時に情報共有を行い連携を図る。 保育所等訪問支援を通し、教育現場との連携を深めていく。 相談支援員との情報共有に努める。
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	訪問看護からデイをご利用されるケースも多く、情報共有している。また医師からの診療情報提供書で情報を得ているケースもある。 MCSを利用し、医療機関等と連携している。 月に1度嘱託医の訪問を受けている。		訪問看護を通じての連絡体制を継続していく。 嘱託医の訪問を継続していく。 MCSからの情報を共有していく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在のところ、そのようなケースは無い。		そのようなケースがある場合は必要に応じ対応する。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	今年度卒業児のケースでリハビリについて情報提供を行うケースがある。 見学希望があるため、日程調整予定。		必要に応じ、連携を取りながら情報提供を行う。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センターや、発達障害者支援センターなどの専門機関と連携する機会や研修の機会は現時点ではまだ無い。		専門機関での研修の受講は今後積極的に検討し、参加していく。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在のところ、保育園、認定こども園との交流は行っていない。放課後等デイサービスも同様である。 公園に散歩に出掛けた際などには、関わる機会がある。	はい：4　どちらともいえない：3　わからない：18 お出かけの時に接する機会があると思う。 障害の無い子との交流や、お出かけをして欲しい。	地域のイベントへの参加など、交流の方法を検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ禍であったため、年に1度の近隣の施設のホールを借りて行っていたイベントを中止している。		近隣に多数の住宅が建設中のため、事業所行事などで交流につながるかもしれないと考えている。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	初回面談時に、1日の流れや具体的な支援内容、送迎費、入浴費など利用者負担額についての説明を行っている。	はい：25	支援内容については日頃から保護者と話す機会がある。 利用者負担などについては、契約時以外は、保護者から質問があった時に丁寧に説明をするよう心がける。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書を示しながらの説明は不足している。	はい：25	計画書を示しながらの支援内容の説明を心がけていく。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングは実施していない。	はい：19　わからない：6	まずはペアレントトレーニングに関してのスタッフの理解を深め、必要に応じ、検討していく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡ノートに保護者の記載欄があり、気になる点など記載していただいている。発達状況や課題については、送迎時や日々の連絡の中でお話し、共通理解となるよう努めている。	はい：25　その日の体調や様子を教えてもらえるので家でも注意することが出来る。 リハビリの課題や提案を学校も含め共有できている。	今後も保護者との共通理解を深めていけるよう、直接お話させていただく機会を作る。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	兄弟児のことも含め、保護者から相談があった場合には、スタッフ間でも話し合い、対応を検討した上で助言等行っている。	はい：25 困った時に対応してもらえ助かっている。	困っていることを話していただけるような関係性が築けるように努める。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会は作られていない。 コロナ禍前は、事業所のイベントで保護者同士が交流する機会を作っていた。	はい：6　どちらともいえない：6 わからない：13 機会があってもなかなか参加出来ていない。以前のようなイベントを再開して欲しい。	現時点では父母の会が作られる予定は無い。 保護者同士の連携支援については、交流の機会を検討していく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情が出た場合には、職員に聞き取りを行った上で検討し、対応を行っている。	はい：17　わからない：8	苦情があった場には管理者、事業所代表に報告。職員間の周知徹底。状況を把握、分析した上で迅速に対応できるよう、体制を整える。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもたちとの意思の疎通を図るため、それぞれの表出の仕方や伝達の方法をスタッフ間で共通認識できるよう情報の共有に努めている。	はい：23　わからない：2	意思疎通の方法については保護者にご家庭での様子を教えていただき共有する。 職員間で共通認識が持てるよう情報共有に努める。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	3ヶ月に1回事業所から通信を発行している。活動の様子は、ホームページのフォトダイアリーに掲載している。 避難訓練の様子も掲載している。	はい：23　わからない：2　ブログ見ています。 ホームページで活動の様子が写真で見ることが出来、表情も分かる。祖父母もブログを楽しみにしている。	多くの利用者にホームページやフォトダイアリーを見ていただけるよう、発信していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	ホームページへの写真掲載については、ご利用開始時に保護者に確認している。 その他の情報共有については	はい：21　わからない：4	個人情報の取り扱いに対しては職員内の意識を高めていく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	防災、虐待、感染の委員会を立ち上げ、マニュアルの策定を行っている。 職員、保護者への周知徹底を進めている。	はい：22　わからない：3 災害に対する防災対策の資料はとても参考になった。	緊急時に備え、職員、保護者への周知徹底を進めていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	火災、地震、不審者に対する訓練を行っている。 消防署に依頼し、実際に通報訓練や消化訓練を実施した。 警察に依頼し、不審者に対する対応や、さすまたの使い方の指導を受けた。	はい：19　わからない：6 ホームページで避難訓練の様子を見ることが出来るので、安心して預けることが出来ている。	あらゆる災害に備えた訓練を定期的に行っていく。 医療機器を使用している利用者が多い為、避難方法を職員間で日々検討し、訓練を重ねていく。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待委員により、虐待防止マニュアルを作成した。 定期的に委員会を開いている。 職員会議の時に、研修機会を作っている。		内部研修に加え、外部研修機会の確保を行っていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	ベッドからの転倒、転落が予測される場合の安全確保を行っている。医療行為を行う場合、痛みや危険を軽減するため、複数のスタッフで身体を補助することがある。車いすのベルトなどは作成時に保護者の同意を得られている。必要に応じ、計画書への記載し		今後も、危険が生じると判断した場合には、保護者の理解を得たうえで、状況に応じ対応していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	子どもの食事は、ご自宅から持参していただいている。アレルギーに関してはご利用開始時に保護者から聞き取りを行っており、食品を扱う活動の場合は複数のスタッフで確認を行う。 保護者から血液検査のデータをいただく		様々なアレルギーがあるため、注意を払っていく。 活動の際は、複数のスタッフで確認をする。 個人の情報シートにアレルギーの記載欄があるため、詳しい記載を保護者にお願いしている。 検査データを更新していく。 外出する際にも注意を払っていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの作成を行っている。 ファイルしており、職員は自由に閲覧出来るようになっている。また、全体会議で報告し、共有を図っている。		ヒヤリハットの事例が起こった場合、詳細に記録に残し、会議などで話し合い、事故防止につなげていく。 職員間で共有し、改善していく。